

奈良県立医科大学

学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

vol. **68** 2019
May

Special Feature

理事長・学長からのメッセージ vol.11

平成30年度 卒業式



奈良県立医科大学

Nara Medical University

Contents

特集	理事長・学長からのメッセージvol.11	3
	平成30年度卒業式	4
	平成31年度入学式	6
	平成31年度公立大学法人奈良県立医科大学予算	8
	平成31年度予算の主要事業・新規事業	9
	新キャンパス整備の取り組みについて	10
	退任の挨拶	12
	就任の挨拶	12
	入退院支援センターの紹介	12
	MBT 研究所だより	13
	図書館だより	14
	第3期中期計画が完成しました	15
Campus News	MBT 研究所運営会議を開催しました	16
	奈良先端大との連携活性化交流会を開催しました	16
	奈良臨床漢方医学セミナーを開催しました	17
	第2回似顔絵セラピーを開催しました	17
	奈良県健康長寿コホート研究成果発表会を開催しました	17
	大和漢方医学薬学セミナーを開催しました	18
	ミシガン大学医学部Fettters教授が本学を訪問されました	18
	チェンマイ大学との交流を図っています	18
	研究不正防止研修会を開催しました	19
	MBT 技術交流会を開催しました	19
	平成30年度看護研究発表会を開催しました	19
	中谷医工計測技術振興財団の贈呈式・鼎談が行われました	20
	奈良県コーディネータ会議に参加しました	20
	「女性研究者・医師支援センター」に名称変更しました	20
Winner Report	第77回日本めまい平衡医学会で60周年記念理事長賞を受賞しました	21
	第77回日本めまい平衡医学会で優秀ポスター賞を受賞しました	21
	先進医薬研究振興財団・平成30年度精神薬療分野研究助成(若手研究者助成)を受賞しました	21
	AMED 国際脳・採択課題のキックオフミーティングを開催しました	21
	第222回日本内科学会近畿地方会で若手奨励賞(優秀演題賞)を受賞しました	22
	高度医療技術修得者養成について	22
	日本医療マネジメント学会第14回奈良支部学術集会で優秀賞を受賞しました	22
	Next Frontiers in Urology 2019で最優秀ポスター賞を受賞しました	23
	第223回日本内科学会近畿地方会若手奨励賞を受賞しました	23
	第33回日本助産学会学術集会学生ポスター発表で全国助産師教育協議会賞を受賞しました	23
	平成30年度FD 活動表彰式を行いました	23
	平成30年度TBL Best Teacher 表彰式を行いました	23
	テルモ生命科学芸術財団・2018年度研究助成(再生医療研究)を受賞しました	24
	平成30年度医学教育等関係業務功労者賞を受賞しました	24
	内藤記念科学振興財団・2018年度奨励金・研究助成を受賞しました	24
	奈良医大チームが3位入賞しました	24
	平成30年度 学位授与の状況	24
	リサーチ・クラークシップ体験談	25
	未来への飛躍基金だより	26
寄附者ご芳名	「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました	26
Information	公開講座情報	27
	平成31年度入試結果	27
	メディア掲載情報/編集後記	28

将来にわたって奈良医大が奈良医大自身で決定権を持つ「主たる大学」として存続するために

学長就任後5年間で行った取り組み

20年後の奈良医大を決めるのは、20年後の人たちではなく、今いる私たちであるということに肝に銘じて、存在感のある医科大学を目指して参りました。表に1期目に始めて現在も継続している事業と2期目に始めた新規事業を示します。(1期目に完了した事業については、表示していません。)1期目に始めた事業につきましては、現在の継続状況を記載しました。(注：ここでいう医学とは、基礎医学、臨床医学、看護学など医系学問のすべてを含んだものです。)

その一例としてMBT構想の進捗状況を述べます。世界に類のない奈良医大独自のMBT構想(医学による日本創生モデル)は、2004年にその前身である住居医学構想の想起から15年が経過しました。大和ハウスによる6億円の寄付講座の設立などを経て、2012年にはより大きなスケールのMBT(Medicine-Based Town、医学を基礎とするまちづくり)構想を想起し実行に移しました。その後、内閣官房地域活性化統合事務局による地域活性化モデルケースに選定され、奈良医大を中心に、国、奈良県、橿原市、早稲田大学によるMBTの骨格ができました。2016年には民間活力の導入を図るために、MBTコンソーシアムを設立しました。現在、建設、食品、繊維、化学、医薬品、鉄鋼、機械、

電気、自動車、精密機器、金融保険、不動産、運輸、情報・通信、電力・ガス、サービスなどほぼすべての職種から大企業を中心に104の企業・団体が医科の単科大学である奈良医大のもとに集まっています。昨年は会員企業である三井住友銀行本店(東京)において、今年は会員企業である日本生命保険の協力を得て、日生劇場(日比谷公園前)で奈良医大が主催するMBT東京大会を行います。

抱負

学問の中には人々から「すごいね。」と言われる業績と「ありがとう。」と言われる業績があると思います。「はやぶさ2」は前者で、「本庶教授のPD-1発見」は前者でもありますが、後者の方が大きいと思います。奈良医大の主たる領域である医学は後者です。

今後、世界で高齢化の波が押し寄せますので、多くの科学分野の中でも医学の重要性がますます際立ってくると思います。奈良医大はこの最重要分野である医学の知識、技術、研究力を持っています。このことを生かして、国内外の大学・研究機関や企業と共同研究をすることによって、世界的に存在感のある大学として社会に貢献したいと考えています。

奈良医大を最上位クラスの医科大学にするための取り組み

— 学長1期目(4年)～2期目(現在2年目) —

◆1期目に開始し、2期目で継続進展している事業(1期目に完了した事業は除く)

- MBT構想(医学による日本創生モデル)の推進：国の省庁とのパイプ構築、民間活力の奈良医大への導入
▶ (2期目) MBTコンソーシアムメンバー企業・団体は104に増加、全国に広がるMBT(MBT東京大会、栃木県におけるMBTなど)、奈良医大発ベンチャーMBTリンク設立(全国医科大学2番目)
- 入試改革：後期入試重視による偏差値トップ5の達成 ▶ (2期目) 2年連続偏差値No.1
- 臨床英語日本一を目指した英語教育改革 ▶ (2期目) 准教授、講師など教授以外の人材もnative speaker登用
- 拡大奈良医大：橿原外に奈良医大連携大学院・研究所などを設置(国立循環器病研究センター、市立奈良病院、阪奈中央病院)
▶ (2期目) 奈良医大東京キャンパス、陽子線がん治療センター(奈良県、高井病院)に連携大学院設置
- 海外や国内の有名研究機関での学生実習(リサーチクラークシップ) ▶ (2期目) 研修大学・機関の拡大
- けいなんなRC(文科省の大型プロジェクト)にオーガナイザーとして参加し、各研究所と共同研究
▶ (2期目) 研究進展、産学連携が進展、JSTから高評価
- 未来への飛躍基金：学生、教職員の能力を最大限に引き出すための各種施策に使用
▶ (2期目) 1期目からの事業に加え、臨床研究中核病院のための資金援助
- 産総研、国循、WHO、ATRなどけいなんな所在機関等有力研究機関との連携 ▶ (2期目) 奈良先端大との連携強化
- 関西公立医科大学・医学部連合、関西私立医科大学・医学部連合の結成：連合によって奈良医大単独ではなし得ない事業の達成、卒業試験の共通化等の検討 ▶ (2期目) 卒業試験の共通化の試み進展
- 国際貢献：ベトナムへの医療援助協定 ▶ (2期目) バックマイ病院のJICAプロジェクトの完了と進展計画
- 外部評価のため有識者委員会の設置 ▶ (2期目) 東京で委員会を開催
- 大学祭の学外実施(イオンモールなど) ▶ (2期目) 継続実施(地域との交流を積極的に展開)
- 全国から医師を集める制度(外科マスター、ドクターNなど) ▶ (2期目) 継続発展、外科マスター医の増加
- 広報の充実(KCNテレビなど) ▶ (2期目) 継続、MBTはマスメディアに取り上げられること多数
- 入学式や白衣授与式における保護者説明会 ▶ (2期目) 継続
- THE世界大学ランキングのランク入りをめざす。
▶ (2期目) 2019年3月ランク入り達成、特に教育リソース分野で上位(1位東大、7位阪大、8位奈良医大と名古屋大、10位東工大)

◆2期目(2018年4月～)の新規事業

- 奈良先端大とのマッチング、教授等教員の相互訪問(医工連携の進展)
- ミシガン大学と連携協定 奈良医大大学院を魅力的にするために、奈良医大大学院に従来のコースに加え、奈良医大ーミシガン大学連携コースを設置
- ハーバード大学の医学教育部門と連携協定 奈良医大にハーバード大学方式を導入
- 中谷医工計測技術振興財団から6000万円×5年の寄付講座獲得、世界的に有名な教授を招聘
- 臨床研究中核病院を目指して、臨床研究センターに教授を選任

平成30年度 卒業式

式辞

学長 細井 裕司

今日よき日、奈良県立医科大学医学部医学科を卒業する116名、看護学科を卒業する84名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは小学校入学以来の長い学生生活を修了され、ここに学士(医学)、学士(看護学)の学位を得られましたことは誠にめでたく、心からお祝い申し上げます。

これは、何よりも皆さんの弛まぬ努力の結果であります。それと同時に、今日まで皆さんを慈しみ育ててこられた保護者の皆様方や、皆さんの人間形成や教育に御指導を賜った教員、並びに関係する皆様のお陰であり、このことに感謝の気持ちを持っていただきたいと思います。

また、本日は、公務ご多忙の中ご臨席くださいました
奈良県福祉医療部長(兼医療政策局長) 林 修一郎様
奈良県議会 厚生委員会委員長 田尻 匠様
をはじめ、御来賓並びに関係各位に心から厚く御礼申し上げます。



奈良医大の発展

皆さんが今日この日を迎えられるのは、ご本人の力だけでなく、皆さん方を支えてこられた多くの方々のお陰であることは先程申しました。奈良医大も同様で、教育、研究、臨床レベルにおいて日本を代表する医科大学として存立することができるのは奈良医大単独の力ではなく、多くの人や組織に支えられているからです。

特に知事はじめ県の皆様方には、奈良医大の発展に大きな力をいただいております、感謝申し上げます次第です。

2014年には奈良医大の将来像策定会議が始まりました。2017年には「奈良県立医科大学の将来像」が完成しました。この過程において、建学の精神、シンボルマーク、教育・研究・診療・法人運営の理念と方針が決定されました。また、2024年には、新キャンパスがオープンする予定です。ここ数年間における奈良医大の発展がおわかりいただけると思います。

世の中の急速な変化 —平安時代と平成時代の比較—

世の中は急速に変化しています。平安時代391年間の最初、いわば平安元年(西暦794年)と最後の、いわば平安391年(西暦1185年)と比べますと、今の時代の人々の目から見ればあまり変わっていないと感じるのではないのでしょうか。平安元年も平安391年も街を見れば、貴族の乗り物の牛車が往来しています。平成時代は平成元年(西暦1989年)から平成31年(西暦2019年)までの30年間、つまり期間としては平安時代の13分の1程度ですが、その変化は何百倍であったのでしょうか。携帯電話に着目してみますと、平成元年の2年前、1987年にNTTがシヨルダールホンより小型化した手のひらに載るようなハンディタイプの無線電話機を市場に出しました。重さは900グラムもありましたが、このあたりから携帯電話と呼ばれるようになりました。それから約30年しか経過していませんが、現在のスマートフォンは、その形状だけでなく、その機能においても30年前の製品とは全く異なったものになっています。



AIの急速な進歩

世の中の急速な変化を考えると、AIがよく例に挙げられます。Googleの α 碁は、囲碁の最強棋士に3連勝し、囲碁の世界を引退しました。そして、Googleは医療に注力すると言っています。その後AIと医療に関する資料をよく見かけようになりました。JAMA(アメリカ医師会雑誌)に掲載された論文において、乳がんの転移を調べるための画像判定にAIが挑み、11人の病理医と成績を比べたところ、大幅にAIが上回ったことが示されました。皆さんが医師や看護師として活躍される時代は、AIを使いこなす能力を要求される時代だと思います。

対処法

どのような激動の世界であっても、皆さんは何も心配することはありません。なぜならば、皆さんは本学で真摯に学んだからです。本学で学んだ知識と技量はこれから皆さんが飛躍していく上での基礎として十分なものだと思います。また、クラブ活動を含めた種々の分野における経験や友人が心の支えになってくれることでしょう。困ったときは母校奈良医大を相談相手にしてください。母校奈良医大は皆さんを一生支えます。

最後に

皆さんを活躍の場に送り出すに当たって、皆さんの人生をより輝けるものにするために、私が自分自身にも常々言い聞かせている好きな言葉を贈りたいと思います。それは、「挑戦するか、人の挑戦にあれこれ言うか。」というある企業のキャッチコピーです。自分の行動を決めるとき、思い出してください。必ず人生が豊かになると思います。

「挑戦するか、人の挑戦にあれこれ言うか。」

本日は誠にありがとうございます。



新たな旅立ち(医学部卒業式 大学院修了式 平成31年3月15日)

今年も258名の若き俊英が旅立ちました。本学のみならず、広く日本、そして世界の医療・医学の向上に大きく貢献してくれることでしょう。(258名: 医学科116名、看護学科84名、大学院医学研究科博士課程40名、同修士課程7名、看護学研究科修士課程11名) また、式の中で、次の賞の受賞者が発表されました。(敬称略)

◆奈良県立医科大学学長賞

医学科6年間または看護学科4年間の課程で最も優秀な成績を収めた者

医学科: ^{こぼやし ひろのり}小林 弘典
看護学科: ^{いのうえ まりこ}井上 麻理子

◆医学科同窓会厳樞賞、看護学科同窓会華樞賞

- ①クラスのリーダーとして顕著な活躍をした者(ヒーローオブザクラス)
- ②ボランティア活動などで社会に特に顕著な功績があった者
- ③クラブ活動など課外活動で特に優秀な成績をあげた者

厳樞賞: ^{みよし ともひろ}三好 智浩、^{なかはら かずき}中原 一貴、^{おくむら かずき}奥村 和生
華樞賞: ^{はななし かとう}加藤 茜、^{あかね かわしま}川島 祐子、^{ゆうこ もりおか}森岡 伸子、^{はまむら しほ}濱村 志保

学長賞受賞者

医学科 小林 弘典

このような栄誉ある賞を授かる機会に恵まれ幸甚に存じます。

大学の勉強は想像以上に大変で、これが本当に将来に活かすことができるのか不安になり、自分を見失いそうになることもありました。その時に、自分の価値観を変えるきっかけになったのが留学でした。3年のスタンフォード大学への留学を契機に、5年でハワイの救急科、6年でグラスゴー大学の内科での臨床実習に参加しました。

また、5・6年次に京都で患者家族が立ち上げたアレルギー患者の支援団体でボランティアとして調査活動を中心に活動し、学会発表・論文投稿も経験することができました。

このような経験をすることができたのは、指導教官の皆様、留学に際してご協力いただいた教育支援課の三田さんを初めとする学校関係の皆様にはこの場を借りて改めて感謝を述べさせていただきます。また、学外の非常に多くの方にもお世話になりましたが、その感謝の念は折を見て個人的に伝えさせていただきたいと思います。

4月から医師としての人生が始まります。これからも前を向いて歩いていこうと思いますので、温かく見守っていただけると幸いです。



看護学科 井上 麻理子

この度は学長賞という名誉ある賞を頂き、大変光栄に存じます。



私は社会人入学でしたので、久しぶりの授業や試験などに、当初は不安でいっぱいでした。膨大な量の課題や実習に、心が折れそうになる時もありました。それでも4年間頑張ってきたのは、教職員の皆様方、同級生、そして家族の温かいご支援があったからこそと痛感致しております。心より深く御礼申し上げます。

4月からは看護師としての新たな生活が始まります。患者様に真摯に向き合い、寄り添うことのできる医療者になれるよう、日々精進して参ります。今後ともご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願ひ申し上げます。

平成31年度 入学式



式辞

学長 細井 裕司

今日、春爛漫の良き日に医学部医学科113名、医学部看護学科85名、合計198名の晴れやかな入学生の皆さんを奈良県立医科大学に迎えることができますのは、私どもの大きな喜びとするところであり、入学生の皆さんに対し心から「おめでとう」と申し上げるとともに、大学を代表して歓迎の意を表します。

また、入学する学生を今日まで慈しみ、支え、育ててこられた、ご列席のご両親やご家族の皆様に対して心からお慶びを申し上げます。

本日、ご多忙の中御臨席いただきました、

奈良県副知事

奈良県議会厚生委員会委員長

奈良県議会議員

奈良県議会議員

奈良県医療政策局長

奈良県立医科大学医学部医学科同窓会会長

奈良県立医科大学医学部看護学科同窓会会長

をはじめ、ご来賓の皆様並びに関係各位に対しまして厚く御礼を申し上げます。

村田 崇様

田尻 匠様

森山 賀文様

亀田 忠彦様

西川 浩至様

國分 清和様

植村 信子様

皆さんが45歳になった時の自分を想像してみてください。なぜ45歳か、医師や看護師として、自信に溢れ充実しているだけでなく、より飛躍しようと大きな希望を持っている時期だからです。その時に、私がそうであったように、皆さんは他大学ではなく、奈良県立医科大学に入学してよかったと本当に思うでしょう。

それでは私が、なぜ奈良医大に入学し、奈良医大で学んでよかったと言えるのかをお話しましょう。

単科の医科大学

まず奈良県立医科大学は小規模な単科の医科大学であるからです。大きな総合大学ですと、多くの学部があり、多くの学生がいるので、いかにも多くのことが学べ、多くの友人ができるように錯覚します。医学や看護学に集中し、それを納めるだけでも6年や4年ではすみません。自分に本当に必要な根幹となる学問をこの専門性の高い医科大学で学ぶ方が、将来ずっと役に立ちます。それに、総合大学といっても、すべての学問が最高のレベルでそろっているわけではありません。総合大学であるがゆえに、より高いレベルの教室と共同研究をしようとしても、その総合大学にある教室と共同研究をせざるを得ないということがあります。

奈良県立医科大学は単科の医科大学ですから、そのようなしがらみはありません。常に最高のレベルの教室と自由に連携ができる状態にあります。私は、耳鼻咽喉科学、特に聴覚を専門にしてきました。超音波が聞こえる研究や第3の聴覚経路である軟骨伝導の発見をもとにして始めた研究において、この利点を生かしてその分野における学外の最高レベルの研究施設と共同研究をしてきました。

また、学長として、国内外の大学や研究機関と積極的に連携をとってきました。国内では早稲田大学、産業技術総合研究所など、海外ではミシガン大学、ハーバード大学などです。



公立大学

二つ目の利点は公立であることです。国が関与する国立大学は86大学ありますが、奈良県が関与する公立大学は二つしかありませんし、医科大学は一つしかありません。

知事をはじめ設置者である奈良県は、医療に熱心であり、そして医療を支える医師や看護師の教育に高い関心を示しておられます。2014年から2017年にかけて奈良県と奈良医大の間で将来像策定会議が行われ、その成果が「奈良県立医科大学の将来像」として、2年前に取りまとめられました。この中に奈良医大の将来にとって重要な理念などが盛り込まれています。

また、新キャンパスの整備計画も着々と進んでおり、皆さんが医師や看護師として活躍される頃には、最も新しい設備を備えた医科大学になっていることと思います。

飛躍する

三つ目は、今まさに飛躍しようとしている医科大学であるからです。2015年、奈良県立医科大学は開学70周年を迎えました。先輩の先生方が築いてこられた70年の蓄積は、全国的に存在感の大きい医科大学として開花しております。その一つとして、先頃発表されましたTHE世界大学ランキング2019年度日本版で、教育リソースの分野において名古屋大学と並んで第8位となりました。ちなみに、東京大学が第1位、大阪大学が第7位、東京工業大学が第10位でした。

この伝統の上に立って、さらなる発展を遂げるべく、まとめられましたのが、先程も述べました「奈良県立医科大学の将来像」です。この中で奈良県立医科大学の建学の精神が規定されました。つまり、先輩が築いてこられた大きな成果に安住することなく、建学の精神を新たに作成し、大きく飛躍しようとしています。この飛躍を担うのが、皆さん方です。皆さん方自身が主役となってこの奈良県立医科大学を飛躍させることができます。

AIと世の中の変化

これから、医学、看護学、医療においてもAIの時代を迎えます。世の中の変化は極めて早く、平安時代391年間で起こったことの何倍もが、AI時代である皆さんの一生のうちに起こるでしょう。この激動の時代に有意義な一生を送るためには、一生を通じた強力なサポート体制が必要です。

奈良医大は日本一の医学、看護学教育を行うことを決意しております。そして、本日入学された今から、皆さん方の一生を通じて皆さんをサポートしていく体制を準備しております。

おわりに

最後に再度申し上げたいと思います。皆さん方が45歳になったとき「奈良県立医科大学に入学してよかった。」と思うことを私は確信しております。

本日は本当におめでとうございます。



平成31年度 公立大学法人奈良県立医科大学予算

平成31年度は、新たに策定した第3期中期計画の初年度であり、目標の達成及び計画の遂行、またキャンパス整備検討に必要な予算について、県等からの支援を活用し、必要な予算を確保するとともに、収入確保や経費削減、投資効果の検証など経営改善策の推進に主眼をおいた予算編成を行いました。

予算規模については、運営費交付金収益の増、人件費の増が見込まれ、とりわけA病棟改修や総合医療情報システム更新などの施設・設備整備経費が大幅に増加するため、平成30年度の約487億円と比較しておよそ62億円増の549億円となりました。

平成31年度の主な取組として、第2期中期計画での課題や成果を踏まえつつ、第3期中期計画で議論された「良き医療人の育成」や「県内基幹病院として地域医療の充実への貢献」等の内容を実施していきます。

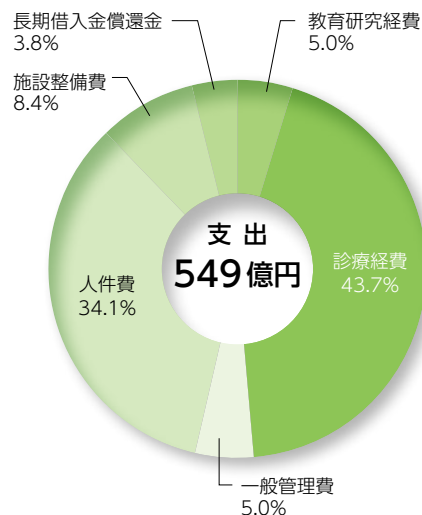
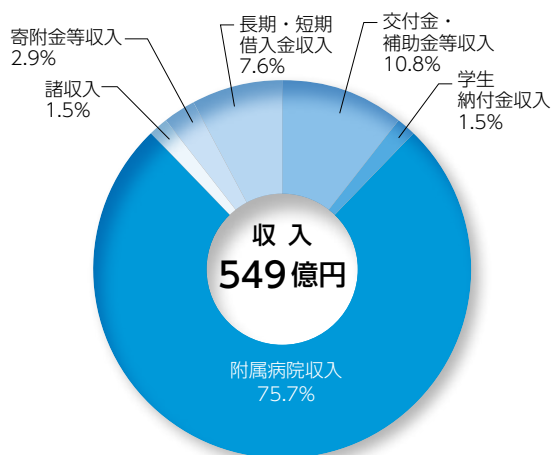
また、基本設計の準備や埋蔵文化財発掘調査、地区計画決定手続への対応など、キャンパス移転に向けた取組も引き続き行います。

法人の更なる発展のため、中期計画の円滑な遂行、効率的な法人経営の推進について、教職員のみならずには、それぞれの分野でのご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

平成31年度予算の内容

収入	項目	予算額	構成比
収入	法人が自ら得た収入 (自己収入)	431.8億円	78.7%
	附属病院の診療報酬等 (附属病院収入)	415.4億円	75.7%
	学生が納付した収入 (授業料・入学金・入学検定料)	8.4億円	1.5%
	その他の収入 (諸収入)	8.0億円	1.5%
	他機関等からの支援 (交付金・補助金)	59.2億円	10.8%
	県からの支援 (運営費交付金等)	50.9億円	9.3%
	国等からの支援 (補助金収入)	8.3億円	1.5%
	職員が集めた収入 (受託研究・寄附金等収入)	16.1億円	2.9%
	借金の借入 (長期借入金等収入)	41.6億円	7.6%
	収入計	548.7億円	100.0%

支出	項目	予算額	構成比
支出	義務的に支払う必要のある経費 (人件費、償還金)	207.8億円	37.9%
	職員への給与の支払い (職員給与)	181.1億円	33.0%
	退職手当の支払い (退職手当)	5.8億円	1.1%
	借金の返済 (長期借入金償還金)	20.9億円	3.8%
	業務の運営に必要な経費 (業務費等)	295.0億円	53.7%
	大学での教育研究に必要な経費 (教育研究経費)	27.6億円	5.0%
	附属病院での診療に必要な経費 (診療経費)	239.8億円	43.7%
	法人の運営全般に必要な経費 (一般管理費)	27.6億円	5.0%
	施設整備や医療機器購入経費 (施設整備費)	45.9億円	8.4%
	支出計	548.7億円	100.0%



平成31年度予算の主要事業・新規事業

地域貢献

適切な医師派遣システムの確立、学生の県内就職率の向上

- 県立医大医師派遣センターの運営
23,600千円 (H30 23,600千円)
医師配置の一元的な運営体制のさらなる整備、県費奨学生の地域配置などの支援
- 県費奨学生配置センターの運営
18,300千円 (H30 18,300千円)
市町村や県の健康増進事業に協力するとともに、予防医学や健康づくりの適切な情報や研究成果を提供
- ドクターヘリ運航推進事業 252,300千円 (H30 249,400千円)
ドクターヘリ運航にかかる委託経費等
- ERの運営 139,200千円 (H30 56,600千円)
県からの交付金を受け、安定的にERを運営して救急医療体制の強化・向上を図る

教育・研究部門

学生生活支援体制の充実、将来を担う優秀な学生の確保、研究成果の地域への還元、研究支援体制・研究環境の充実

- 良き医療人育成推進事業 47,200千円 (H30 49,700千円)
豊かな人間性に基づく高い倫理観と旺盛な科学的探求心を備え、最善の医療提供を行う強い意志を持った医療人の育成
- 新医師・患者関係学講座事業 33,000千円
医師としての人間性を育むための支援を行う講座の設置・運営にかかる経費
- 新看護学科・看護学研究科特設サイト開設事業 2,100千円
看護学科及び看護学研究科の教育内容や学生生活を紹介するウェブサイトの開設
- 重点研究推進事業 37,400千円 (H30 35,600千円)
血栓止血の制御に関する研究および画像下での低侵襲医療(IVR)に関する研究
- 新若手・女性研究者等への支援事業 45,000千円 (H30 50,300千円)
若手研究者や女性研究者の研究活動に対して助成等を行い、更なる研究の発展を図る

診療部門

法人の将来を見据えた大規模な投資、患者サービスの向上、病院機能の充実

- 新総合医療情報システム整備事業 1,820,000千円 (H30 600,000千円)
システムの更新により機能の充実、患者サービスの向上、医療の安全、診療の支援に寄与する
- A棟改修事業 1,056,300千円 (H30 1,017,900千円)
臨床医学研究棟の仮移転先としてA棟改修を実施
- 新病理診断室改修事業 160,000千円
診断受託業務の増加に伴う病理診断室の拡張工事にかかる経費
- 臨床研究センターの機能充実 233,100千円 (H30 230,000千円)
臨床研究中核病院の認定取得のため、臨床研究センターの機能を充実

まちづくり

医科大学を中心としたまちづくりの推進

- 医大周辺まちづくりプロジェクト事業 238,200千円 (H30 161,900千円)
新キャンパス移転地での各種調査や臨床医学研究棟除却工事等にかかる経費

管理部門

法人組織の円滑な運営・福利厚生の充実、事務の合理化の推進

- なかよし保育園の運営 157,300千円 (H30 120,500千円)
職員の保育ニーズに対応するため、運営委託、病児保育委託、夜給食提供を実施
- 新働き方改革推進事業 24,500千円
全教職員が働きやすい魅力ある職場環境づくりに向け、制度設計や調査、出退勤管理システムの改修等を実施
- 法人経営プロジェクト 1,000千円 (H30 300千円)
法人職員の統計リテラシーの醸成を図り、各種データの収集・分析及び改善策の提案
- 新中期計画実施事業 2,000千円
第3期中期目標・計画ハンドブックの作成や計画達成に向けた取組にかかる経費

新キャンパス整備の取り組みについて

新キャンパス整備については、以前学報 vol.64 において、整備工程を「先行整備」「継続整備」に分けること、「先行整備」では教養教育部門・看護学科（医学科1年・看護学科1年～4年）が学ぶ施設を整備し、2024年度中の竣工を目指すこと、などをお知らせしました。

その後の進捗状況と今後の予定について、以下にご紹介いたします。

現在の進捗状況

①施設整備基本計画

施設整備基本計画の策定にあたりまして、各教育協議会や学生の皆様よりご意見をいただきながら、キャンパス整備検討委員会で新キャンパスにおける整備方針や整備内容を検討し、動線・ゾーニング・インフラ・建物構成・建物内諸室の配置等を取りまとめました。

今後、これらをもとに基本設計・実施設計でより具体化してまいります。

②地区計画協議

新キャンパス予定地は市街化調整区域に位置しており、市街化を抑制する区域となっています。そこで、新キャンパスを整備するためには、都市計画法に基づいた地区計画の策定が必要となります。現在は地区計画の素案を作成し関係機関である奈良県や橿原市、また地元の皆様と協議を重ねて合意形成を図っているところです。地区計画の決定が新キャンパス整備の大切な一歩となります。



③土壌汚染物質除去

平成28年度行った土壌調査において、11区画において鉛・水銀などの土壌汚染物質が検出されました。これらは健康に影響を与える程度のものではないものでしたが、2018年度には汚染土壌の掘削除去作業を実施し、除去跡地に新しい土を搬入しました。このことにより新キャンパスは汚染のない安全な土地となりました。

④ボーリング調査

新キャンパスに建物を建てる際には、建物の基礎の構造を検討する必要があるため、地層の構成や地盤の特性を調べ、建物を支持する支持基盤を確認する調査を行いました。

今後の予定

①地区計画決定

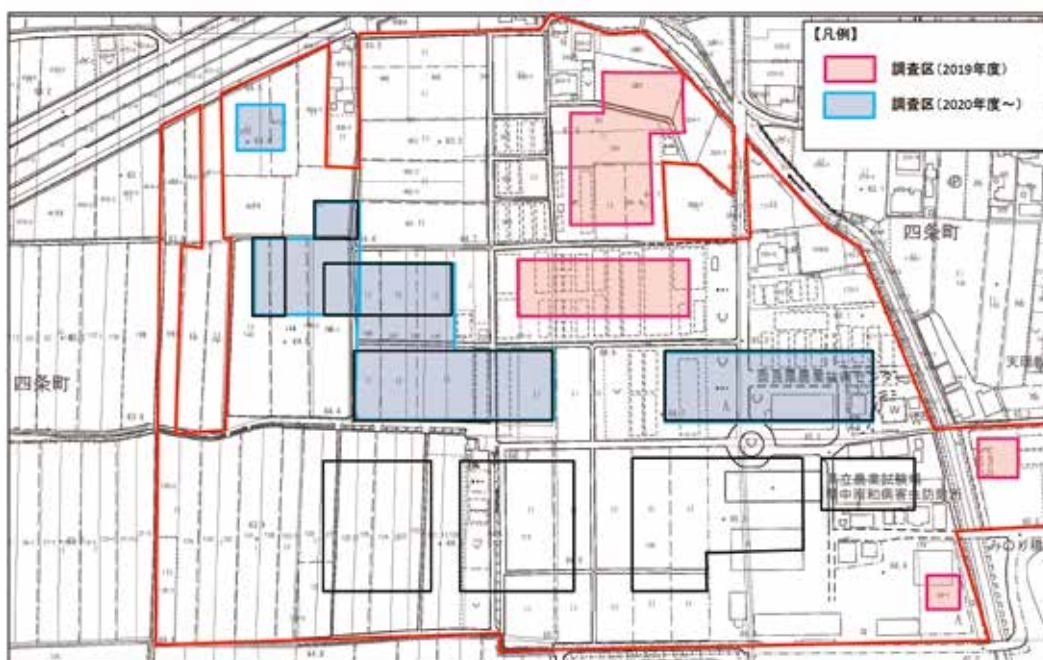
地区計画決定にあたっては、住民の皆様に対する公告・縦覧や檀原市都市計画審議会への事前説明、本審議を経て、檀原市が地区計画決定を行うこととなります。

地区計画決定に向け、今後も引き続き檀原市と協議しながら、併せて地元の皆様に対しましても説明をさせていただきながら、地区計画決定を目指します。

②埋蔵文化財発掘調査

周知の埋蔵文化財包蔵地である新キャンパス予定地で建物を建築いたしますので、埋蔵文化財発掘調査を行う必要があります。発掘によって得られた成果は記録にとどめたくうえで建築することができます。

埋蔵文化財発掘調査は2019年度から3年かけて行う予定です。



新キャンパス埋蔵文化財発掘調査予定箇所

学報編集委員会 からのお知らせ

✎ 寄稿記事募集案内

「学報」では、奈良県立医科大学や附属病院に関すること、お知らせ等を掲載するため、これらに関連する記事を広く募集しております。

掲載を希望する記事がある場合は内線2206までお問い合わせください。

なお「学報」は年4回発行しており、本学教職員・学生のみならず本学同窓会会員や関連大学・病院等にも配布しております。



退任の挨拶



法医学講座 羽竹 勝彦

平成31年3月末をもって法医学講座の教授を退任することになりました。長年の間、法医学講座を支えていただきました大学の教職員の方々並びに関係各位に厚く御礼申し上げます。

阪神淡路大震災後の平成7年4月に兵庫医科大学から奈良県立医科大学に着任して24年間、法医学業務、学生教育、基礎医学教育部長など色々と経験させていただき、充実した日々を送ることができるとともに大きく成長することができました。奈良県立医科大学並びに法医学に関わってご支援いただいた方々の益々のご発展を祈念いたします。



総務・経営担当理事 事務局長 杉山 孝

本年3月末をもって退任し、奈良県農林部に転出しました。2年間の在任中には、第3期中期目標・計画の策定や新キャンパス整備基本計画書の作成など、「将来像」の実現に向けての第一歩ともいべき仕事を皆様と共にさせていただきました。この仕事の中で、改めて知事の本学に対する期待の大きさと、その期待に応えようとする皆様の真摯な態度を実感し、県との調整役として精一杯努力させていただきました。これからは、まさに実行の段階に入ります。理事長のリーダーシップのもと、皆様が一丸となって中期計画を着実に実現されることをご祈念いたします。最後になりましたが、これまで皆様からいただきましたご厚情に、心からお礼申し上げます。

就任の挨拶



理事・事務局長 西浦 嘉彦

このたび4月1日付けで、杉山前理事の後任として理事・事務局長を拝命しました。

今年度は、奈良医大と県とで真摯に策定した第3期中期目標・計画を実行に移す初年度であり、また、2024年度に向けて新キャンパス整備の基本計画を具体化していく年でもあります。さらに、5月の電子カルテ更新、A棟改修や耐震への対応など、多くの重要案件があります。

一方、働き方改革関連法が施行され、残業時間の上限規制や一定の要件を満たす職員の年休5日取得が義務づけられました。医師への上限規制適用は2024年からですが、大学の医師が担っている業務の特殊性を踏まえた準備も急務です。

働き方改革を逆風ではなく、働きやすくやりがいのある職場づくりを進めるための追い風と捉えて取り組んでいきたいと思っています。

本学で5年の経験しか持たない私ですが、精一杯努力して参る所存ですので、何卒ご指導ご支援をよろしくお願いいたします。

入退院支援センターの紹介

平成30年11月21日より入退院支援センターが開設しました。設置目的として入退院に関する事務手続きと相談業務の一元化による患者サービスの向上と負担軽減によって、患者さんが安心して入院して頂くこと、医師・看護師の負担軽減、適切な水準の病床稼働率の確保です。そして医師・薬剤師・管理栄養士・MSW・看護師・事務員が連携し円滑な入院から転院・退院に繋がれるように取り組んでいます。



1. 第4回MBTコンソーシアム 会員会議の開催

2月20日、厳樞会館にてMBTコンソーシアム全会員を対象にして、第4回MBTコンソーシアム会員会議を開催しました。冒頭、細井理事長よりMBTの今後の活動についての方針が示されました。次に、MBT活動が海外への展開も進めていることを会員に紹介することを狙いに、梅田智広研究教授によるMBTの海外活動紹介と奈良医大学生による「世界に羽ばたくMBT」と題した英語スピーチコンクールが行われ、医学科5年；藤中加奈さん、医学科4年；斎藤正一郎さん、看護学科1年；岡田美乃梨さんの3人がスピーチを行いました。審査の結果、斎藤正一郎さんが最優秀賞を受賞されました。また、会員企業のMBT活動内容の紹介を行い、6社に紹介をいただきました。本会議には会員企業・団体から70名、奈良医大教職員33名、計103名の参加者がありました。



MBTの方針を提示する細井理事長



最優秀賞受賞の斎藤正一郎さん



エントリーの3人の学生

2. MBTオープンミーティング2019 in東京

5月24日、奈良医大とMBTコンソーシアムはMBTコンソーシアム会員企業の日本生命保険相互会社の協力を得て、日本生命日比谷ビルで、「MBTオープンミーティング2019 in東京」を開催いたします。

今回のオープンミーティングでは、古家病院長を中心に開発を進めている「スマートデバイスを用いたスマートモニタリン

グ/Safety-Net MBT」の報告等を行うとともに、2025年万博基本構想検討会議委員の大阪市立大学嘉名光市教授に万博の目指すものとMBTへの期待について特別講演をして頂くこととしております。

学内の皆様には、ご都合がございましたら下記URLから大会参加申し込みをお願い申し上げます。

日時：5月24日(金) 13:00～16:00

場所：日本生命日比谷ビル 7F 大会議室

要申し込み：https://pro.form-mailer.jp/fms/4ce33078165733

3. ヘルスケアサービス実証実験開始

近鉄グループホールディングス、MBT研究所、MBTリンク社は、近鉄沿線でヘルスケアサービス実証実験を4月から開始しました。期間は1年間で、対象者は300名です。本実験ではウェアラブル端末などを使用して、一人ひとりのバイタルデータや生活環境データを収集・蓄積・分析し、医学的根拠のある生活アドバイスを提供する「パーソナル健康サービス」や、家族等にバイタルデータの異常を伝える「異常値通知サービス」を提供します。さらに、生活アドバイスに即した料理レシピを提供し、食材を購入し易いようネットスーパーにもリンクする「レコメンデーションサービス」を実施します。また、「健康ポイントサービス」をブロックチェーンのシステムを用いて発行します。1年間の実証実験を終え、その結果や効果を検証したうえで、新たなサービスとして、ヘルスケアサービスとして実装化される予定です。

今回の取り組みは国土交通省「スマートウェルネス住宅等推進モデル事業」における「住宅団地が抱える4つの潜在的課題を解決する事業スキームの構築」として選定されております。

4. 「MBTコンソーシアム」商標登録

平成30年12月21日「MBTコンソーシアム」が商標として登録されました。今後MBTロゴマークの商標登録を目指しており、MBTの名称が大きなブランドとなるよう図って参ります。

「MBTコンソーシアム」
商標登録証

検索マスターへの道 (第14回) PICOから始めよう

PICOをご存知ですか？ EBM (Evidence-based Medicine) の話になるとまず出てくるPICO、実は検索にも欠かせないものなのです。

PICOとは臨床上の疑問(クリニカルクエスチョン:CQ)や研究テーマとしたい疑問(リサーチクエスチョン:RQ)をP・I・C・Oという4つの要素に分類し、疑問を定式化する方法です。構成要素は以下のとおりです。

- P (Patients, Problem, Population) : 患者、課題、対象
- I (Interventions) : 介入
- C (Comparisons) : 比較、対照
- O (Outcomes) : アウトカム (結果)

自分が検索したいテーマ(CQ,RQ)をPICOに当てはめることで、構成要素が整理され検索戦略を立てやすくなります。基本的に各構成要素はANDで組み合わせて検索式を作ります。また、少しでも関連ある文献を多く拾いたい場合はPIまたはPICを、できるだけ関連性の高い文献に限定したい場合はPICOすべてを組み合わせるなど、PICOの組み合わせによって検索の感度(検索モレを少なく)や精度(検索ノイズを少なく)を調整することもできます。

それでは、ここからは具体的な検索テーマを用いて検索戦略の立て方を解説します。使用データベースはPubMedです。

(検索テーマ) 2型糖尿病の薬物治療においてSGLT2阻害薬はDPP-4阻害薬に比べて全死亡リスクを下げるか？

(検索戦略)

1. PICOの構成要素に当てはめる

P	2型糖尿病患者
I	SGLT2阻害薬
C	DPP-4阻害薬
O	全死亡リスクの低下

PICOを意識していなくてもほしいこのあたりの検索キーワードを挙げて検索されるかと思いますが、それらの構成要素をどう組み合わせるかはPICOで構造的にテーマを理解しておくとうりやすいです。では、これらの要素に関する検索キーワードを挙げて検索式を組み立てます。

2-1. 検索式を立てる (感度重視)

#1	P	"Diabetes Mellitus, Type 2"[mh] OR "Type 2 Diabetes"[tiab] OR "Noninsulin-Dependent Diabetes"[tiab] OR "Non-Insulin-Dependent Diabetes"[tiab] OR T2DM[tiab]	165882
#2	I	"Sodium-Glucose Transporter 2 Inhibitors"[mh] OR "Sodium-Glucose Transporter 2 Inhibitors"[pa] OR "sodium glucose co-transporter 2"[tiab] OR "sodium-glucose cotransporter 2"[tiab] OR SGLT-2[tiab] OR SGLT2[tiab]	3507
#3	C	"Dipeptidyl-Peptidase IV Inhibitors"[mh] OR "Dipeptidyl-Peptidase IV Inhibitors" [pa] OR DPP-4[tiab] OR DPP4[tiab] OR DPP-IV[tiab] OR DPPIV[tiab]	7553
#4	PIC	#1 AND #2 AND #3	460

(2019.3.13 検索)

感度重視(検索モレを少なくする)には、構成要素の組み合わせはなるべく少ない方がいいため、Oは入れずPICの要素で検索式を立て

てます。Oは文献中では様々な表記がされていて、検索モレのリスクが大きくなるため通常の検索ではあまり入れません。そして、それぞれの構成要素はなるべくたくさんの検索キーワードをORで繋げて検索モレがないようにします。それぞれの要素では、MeSHと自然語を繋げています。角括弧[mh][tiab]は検索フィールドを指定するタグで、それぞれMeSH、タイトル・アブストラクトに限定するという意味です。(学報第58号参照) 自然語はハイフンの有無や略語、ローマ数字やギリシャ文字の表記でも異なるため、思いつく同義語を挙げてORで繋いでいます。最後にPICをANDで組み合わせて460件の文献がヒットしました。

2-2. 検索式を立てる (精度重視)

#1	P	"Diabetes Mellitus, Type 2/drug therapy"[mh]	30374
#2	I	"Sodium-Glucose Transporter 2 Inhibitors"[mh]	1324
#3	C	"Dipeptidyl-Peptidase IV Inhibitors"[mh]	3390
#4	PIC	#1 AND #2 AND #3	137
#5	O	Mortality[mh] OR mortality[sh]	725198
#6	PICO	#4 AND #5	6

(2019.3.13 検索)

精度重視(検索ノイズを少なくする)には、構成要素の組み合わせを増やします。また、検索キーワードをMeSH用語に限定し、自然語は使っていません。(ただしMeSH用語に限定するとMeSH付与以前の最新文献は除かれるため要注意) PのようにMeSHにサブヘディングをつけたり、場合によってはMajor Topicに絞り込むことで、MeSHをより限定することもできます。(学報第51号参照) PICとOをANDで組み合わせて最終的に6件となりました。前述のようにOを組み合わせると件数が格段に減ることが分かります。

2-1、2-2で違いを見ていただいたとおり、検索の感度と精度はトレードオフの関係になっています。つまり感度を上げると精度が落ち、精度を上げると感度は落ちます。自身の求めている検索はどのようなものなのか、関連する文献をすべて集めたいのか、とりあえず“ズバリ”な文献が欲しいのか、検索の目的を考えて構成要素や検索キーワードの内容を調整しましょう。

最後に、PICOを使った文献検索についてもっと詳しく知りたいという方にお勧めの本をご紹介します。

こちらの本はPICOを使った検索戦略の立て方について実際のCQを例に挙げ詳しく解説しています。EBM本やデータベース解説本はあっても、文献検索についてこれだけ体系的かつ実践的に書かれた本は今までありません。検索に興味のある方はぜひ読んでみてください。図書館ホームページ上で毎月発行しているニュースレター2019年3月号(第103号)のTea Breakでも紹介していますので合わせてご覧ください。(図書館2階北側単行本490.7-Kojに配架)



「PICOから始める 医学文献検索のすすめ」(南江堂,2019年2月発行)

【お詫び】前号の図書館だよりでは「検索マスターへの道(第12回)」となっていますが、正しくは「第13回」でした。お詫びして訂正します。

第3期中期計画が完成しました

平成30年度当初から取り組んできた第3期中期計画（2019～2024年度）が、第3期中期計画委員会など様々な委員会での議論を経て、この度完成の運びとなりました（平成31年3月27日奈良県知事認可）。

第2期中期計画（2013～2018年度）については、全教職員が一丸となって取り組んだ結果、医師派遣センターの設置や本学発祥のMBT、またER型救急体制を運用するなど、一定の成果を上げることができました。

中期計画は、地方独立行政法人法において、県が議会の議決を経て法人に示す中期目標（法人が6年間で達成すべき目標）を達成するための計画と位置付けられています。第3期中期計画は、県が中期目標において示す行政的観点からの種々の要請に対応しつつ、本学が第2期中期計画の成果を継承して、さらなる発展、飛躍を実現できるよう、将来を見据えた内容となっ

ています。

計画の概要は下記の通りとなりますが、本法人の基本的な役割として、「地域貢献」「教育」「研究」「診療」「法人運営」の各要素を網羅しています。また、第3期中期計画の特徴として、県から期待されている「最高の医学と最善の医療を行う「良き医療人」の育成」及び「県内基幹病院として、地域医療の充実への貢献」という役割を担うべく、高度医療、急性期医療、慢性疾患という特性に対応できる「患者を理解する心」、「知識」、「技術」を持った人材育成が盛り込まれています。

これらの内容を学内にて共有するため、全教職員に対し計画の内容を紹介したハンドブックを配付するとともに、説明会も開催致します。

これらを通し、第3期中期計画の趣旨・内容を把握いただき、計画達成に向け一丸となって取り組んでいきましょう。

第3期中期計画の概要

I 地域貢献	[教育関連]	① 医師・看護師・保健師の県内定着
		② 医師の偏在・散在の解消
		③ 看護師の質の向上
	[研究関連]	④ 地域に根ざし地域と歩む研究の推進
		⑤ 県民を守る「最終ディフェンスライン」の実践
	[診療関連]	⑥ 病病連携・病診連携の推進
		⑦ 各領域の担い手となる医療人の育成
II 教育	⑧ 「心の教育」を軸とした「良き医療人」の育成	
	⑨ 教員の教育能力開発と教育全般に関する360度評価	
	⑩ 学生への支援の推進	
	⑪ 学習環境と教育環境の充実	
	⑫ 最善の医療に貢献する最先端の研究の実施	
III 研究	⑬ 横連携・他分野連携の推進	
	⑭ 研究推進体制の適正化と強化	
	⑮ 県内基幹病院としての機能の充実	
IV 診療	⑯ 患者満足の一層の向上	
	⑰ 安全な医療体制の確立	
	⑱ ガバナンス体制の確立	
V 法人運営	⑲ 医療費適正化の推進とそれを支える費用構造改革の徹底による持続可能な経営基盤の確立	
	⑳ 働き方改革の推進	
	㉑ 医療人としての人材育成	
	㉒ 医療人としての人材育成	

1.22 MBT 研究所運営会議を開催しました

平成31年1月22日にMBT 研究所運営会議を学長室会議室で行いました。運営会議は、MBTの研究や取り組みの統合調整を図るため、定例的に開催しており、毎回白熱した議論が交わされています。

この日の会議では、2月20日に行われる技術交流会についての様々なアイデアが飛び交い、進行を決定しました。また、5月24日に、東京の日本生命日比谷ビルで開催する「MBT オープンミーティング2019 in 東京」についての検討も行いました。MBTは、今後ますます活躍の場を広げていきますので、ご期待ください。



MBT 研究所運営会議の様子

1.25 奈良先端大との連携活性化交流会を開催しました

奈良県立医科大学と奈良先端科学技術大学院大学とは、平成21年3月に、相互協力に関する包括協定を締結し、医工学融合分野等における相互の学術交流を通じて、教育・研究・医療のレベルを一層高めることにより、研究開発や人材育成をめざしてきました。このたび、連携活性化交流会が、奈良先端科学技術大学院大学において行われ、本学からは、16名の先生が参加しました。

今回は、グループディスカッション方式で、方向性が同じ研究の4つのグループに分かれ、それぞれの研究者が自身の研究テーマについて発表し、その研究内容について討議が広がり、会議時間を超過する程の熱い論議がありました。

その後に行われた交流会でも、グループディスカッションからさらに発展した内容で、話が尽きない様子で、共同研究の話にまではずまれた先生方もおられました。連携強化に向けて、少しずつ確実に進んでいるのが感じられました。

次回の交流会は7月に本学において行う予定です。学内に周知しますので、ぜひご参加ください。



グループディスカッションでの活発な討議の様子



討議に続く交流会



奈良県立医科大学と奈良先端科学技術大学院大学の参加者

2.7

奈良臨床漢方医学セミナーを開催しました

丹村敏則先生(知多厚生病院副院長)を講師にお招きした4回シリーズ「知らなきゃ損!」の最終回を、「Dr丹村の総まとめ漢方講座」と題し開催いたしました。過去3回分の中から、もう一度聞きたいという声が多かった内容を中心に講義され、講義終了後は多くの質疑応答があり盛況のうちにセミナーが終了しました。

平成31年度も漢方の仕組みをご理解いただくため新たなセミナーを行いますので、興味のある先生方のご参加をお待ちしております。



講演中の様子(厳禮会館3F大ホール)



講演を行う丹村先生



(司会)教育開発センター 藤本教授

2.12
~14

第2回似顔絵セラピーを開催しました

似顔絵アーティスト村岡ケンイチ先生をお招きして、一般財団法人弘済会と看護部の共催で、第2回似顔絵セラピーを(2月12日~14日)開催致しました。「似顔絵セラピー」は医学的にも認められていて、病気をされている現状を描くのではなく元気だった頃の様子や歩み、これから叶えたい夢などをお聞きして色紙に患者さんの人生を描いていきます。昨年15名、今回は17名の患者及び家族を描いていただきました。村岡先生は「絵を見て頑張ろうと思ったり、何かのプラスになったりしてほしい」

絵を見て感動される姿は、本人・家族及び看護師にも笑顔があふれ反響を呼んでいます。今回は、看護師長、主任対象に講演会開催、実際に主任に対してセラピーを1名、講話では今までの功績及び実際にセラピーをされている内容をイラストアニメーション通して講演。またメディアには似顔絵セラピー内容を2月12日奈良放送「ゆうドキッ!」で放送、2月13日読売新聞にも掲載されました。



2.16

奈良県健康長寿コホート研究成果発表会を開催しました

本学主催の公開講座「くらしと医学」において、奈良県健康長寿コホート研究の成果発表会を開催しました。

この研究は、本学の将来像に定めた重点研究の1つであり、健康長寿を維持させる要因を多面的に研究する県下全域の10,000人を対象とした3つの研究課題からなる疫学調査です。このたび、研究成果の地域還元、地域住民の健康意識高揚などを通じた地域貢献を図ることを目的に開催し、多数の方のご参加をいただきました。

「心不全?今、超高齢社会での大きな課題
一心不全とは何か?どのような医療が求められるのか?
奈良県健康長寿コホートから見えてきたもの」

研究代表者・演者:循環器内科学 教授 齋藤 能彦

「手術後機能障害の発生とその関連因子についてのコホート研究」

研究代表者:麻酔科学 教授 川口 昌彦

演者:附属病院中央手術部 助教 位田 みつる

「温度・光曝露が健康に及ぼす影響に関する前向きコホート研究」

研究代表者・演者:疫学・予防医学 教授 佐伯圭吾



循環器内科学
齋藤能彦教授



中央手術部
位田みつる助教



疫学・予防医学
佐伯圭吾教授



会場の様子

Campus News

2.17 大和漢方医学薬学セミナーを開催しました

「これだけは知っておきたい漢方処方」と題し、大和漢方医学薬学センター 三谷 和男特任教授に講演いただきました。漢方医学における、より実践的な内容を扱う本セミナーでは、今回「舌診」を実技テーマとし、舌所見をいかに病態把握の武器にしていくかについて、模擬患者への診察を通して学んでいただきました。また、「症例から学ぶ」では、漢方医学の「四診（望診（舌診）、問診、聞診、切診（脈診、腹診）」を駆使して診断すること、そして漢方によって“めぐりを改善する”ことで、症状を緩和、改善していく三谷先生流の診断術を学ぶ機会となりました。

その後の「総括・質疑」は、事前に相談を受けていた症例のほか、当日の講義内容についてより深く理解しようとする熱心な質問が相次ぎ、非常に有意義な時間となりました。



三谷先生



(司会) 教育開発センター 藤本先生



セミナーの様子

2.18 ミシガン大学医学部 Fetters 教授が本学を訪問されました

平成31年2月18日、ミシガン大学医学部 Family MedicineのMichael D. Fetters教授が本学を訪問されました。この訪問は昨年12月のミシガン大学医学部との基本合意書締結を機に実現したものです。

学長表敬訪問や本学教員とのミーティングでは、共同研究、学生交流、教員交流、指導医招へい等について活発な意見交換が行われました。

今後の交流の可能性を見据えるため、専門の立場から本学の総合診療科を見学するとともに、明日香村国民健康保険診療所を訪問し、同診療所の武田先生、対馬先生、上谷先生から医療の状況について説明を受けました。

ミシガン大学医学部との交流については、今後一層深めていきたいと考えています。



理事長室にて（前列右から2人目がFetters教授）



明日香村国民健康保険診療所訪問
（前列右から上谷先生、武田先生）

2.19 ~ 27 チェンマイ大学との交流を図っています

本学とタイのチェンマイ大学との間で平成8年に締結された学術交流協定に基づき、20回目となる交換留学を実施しました。

平成31年2月19日から2月27日まで、チェンマイ大学医学部4年生の学生4名が来学し、脳神経内科学、消化器・総合外科学、脳神経外科学、胸部・心臓血管外科学、整形外科、精神医学、救急医学、形成外科の7教室1診療科で研修を行いました。関係教室の先生や職員の方々には、ご協力深く感謝します。

また、本学からは3月16日～3月25日の日程で、医学科4年生4名がチェンマイ大学を訪れ、現地の医療・医学事情等について研修を行いました。



2.19
2.21

研究不正防止研修会を開催しました

研究者等に求められる倫理規範の修得を目的に、研究不正防止研修会を開催しました。ロバスト・ジャパン株式会社 中安豪氏を講師に、研究と研究者等を守るための適切な研究管理と資金管理について、様々な事例を交えながらお話をいただきました。

この研修会は、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン（平成26年8月26日文科科学大臣決定）」及び「公立大学法人奈良県立医科大学における研究活動上の不正行為の防止等に関する規程」に基づき、毎年開催しています。



研修会の様子

2.20

MBT 技術交流会を開催しました

MBT コンソーシアムとの共催で、厳樞会館にて「技術交流会」を開催しました。当日は多数の企業や団体の参加があり白熱した交流会となりました。

今回は、海外も意識して活動を進める奈良医大 MBT 研究所の海外活動報告、奈良医大学生による「奈良医大から世界に羽ばたく MBT」と題した MBT 英語スピーチコンクール、奈良医大と連携して活動を進める企業 6 社による活動紹介、意見交換会等が行われました。

理事長・学長による MBT の進捗状況報告から始まり、英語スピーチコンクールでは、3 名の学生がエントリーし発表しました。MBT 研究所の海外活動報告では、今まで医学に直接つながりのなかった業種の企業も含め、すべての産業に医学の知識を投入してイノベーションを起こす運動として国内のみならず海外にも視野を広げていく方針や、現在、マレーシアにも展開しつつある MBT の状況を紹介しました。



細井理事長・学長の MBT の進捗状況報告



梅田研究教授による MBT の海外活動報告



英語スピーチコンクール受賞者
左より医学科 5 年 藤中加奈さん・
医学科 4 年 斎藤正一郎さん・看護学科 1 年 岡田美乃梨さん

3.2

平成 30 年度看護研究発表会を開催しました

平成 31 年 3 月 2 日に臨床第一講義室で「平成 30 年度看護研究発表会」を開催しました。各部署から 27 の演題が出されました。内容は、研究的な視点での取り組みから、看護実践の改善に関わることまで多岐にわたりました。良い看護を実践したいという思いが動機になった内容が多く質疑応答も活発でした。今年度から優秀な発表を表彰することになり、最優秀の看護部長賞を放射線治療核医学科・腫瘍センターの水谷由佳氏が受賞されました。



3.11 中谷医工計測技術振興財団の贈呈式・鼎談が行われました

公益財団法人中谷医工計測技術振興財団の長期大型研究助成金の贈呈式が、東京において、行われました。

長期大型研究助成として、医工計測技術分野における技術開発や技術交流等の促進と人材の育成を目的に、本学に設置した寄附講座 V-iCliniX 講座の佐藤 匠徳（さとう なるとく）教授の「生体 5 次元情報」を解説する医工計測技術を創出する「知・もの・人」づくり計画が採択されたものです。

贈呈式では、中谷財団の軽部理事長、本学の細井理事長・

学長の挨拶に続き、佐藤教授からは、「500%ではなく、500倍の力で頑張ります。」と強く抱負を語られました。

贈呈式の後は、軽部理事長、細井理事長・学長、佐藤教授による鼎談が行われ、寄附講座で行う新しい研究の内容や、奈良医大の進める MBT 構想について三者でのそれぞれの立場から熱い思いが語られました。

この鼎談の様子は日経サイエンスの 6 月号に掲載されます。



奈良医大への贈呈



左から中谷財団軽部理事長、佐藤匠徳教授（寄附講座）
細井理事長・学長



鼎談の様子

3.15 奈良県コーディネータ会議に参加しました

本学と奈良県地域産業振興センター等の県内の産学官コーディネータが集まり、毎月定例的に奈良県コーディネータ会議を開催しています。

この会議では、各機関が日々活動している産学官連携業務を進めていく過程での問題点を担当者間で共有し解決することや情報交換を目的としています。会議で得た研究成果を企業とのマッチング等で本学の産学官連携に活用していきます。



奈良県コーディネータ会議の様子

4.1 「女性研究者・医師支援センター」に名称変更しました

女性研究者支援センターは平成 23 年 2 月に学長直轄の大学組織として設立されました。同年、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に選定され、その後 3 年間は主として補助金による運営を行ってききましたが、平成 26 年度からは法人予算で運営しています。

設立当初から、「女性が働きやすい、働きがいのある職場」は、「男性にとっても働きやすく、働きがいのある職場」であるとの基本的な考えのもと、女性研究者はもとより本学に籍を置く教職員の皆さまや学生が、能力を発揮し活躍できるような職場・教育環境の整備に尽力してきました。平成 27 年度からは、センターの活動内容により即した名称が必要と考え、英語名を Center for Diversity and Inclusion (CDI) としています。

今後は、本学の女性研究者のうち多くを占める医師に対して、より一層の研究支援や職場環境の整備を行うことをめざし、センターの日本語名を平成 31 年 4 月 1 日から「女性研究者・医師支援センター」に変更しました。

名称変更後も設立当初からの基本方針を忘れることなく、全ての教職員に貢献できるように取り組んで参りますので、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



Winner Report

11.29 第77回日本めまい平衡医学会で 11.30 60周年記念理事長賞を受賞しました

耳鼻咽喉・頭頸部外科学 教授 北原 紘

平成30年11月29日から30日にかけて、山口県湯田温泉で第77回日本めまい平衡医学会が開催されました。この学会会期中に執り行われた学会創立60周年記念式典で、原因不明のメニエール病に対する『内リンパ嚢開放・高濃度ステロイド挿入術の開発』にて、60周年記念理事長賞として表彰されました。これをワン・ステップとして、さらに高みを目指し精進したいと思います。



11.29 第77回日本めまい平衡医学会で 11.30 優秀ポスター賞を受賞しました

耳鼻咽喉・頭頸部外科学 大学院生 伊藤 妙子

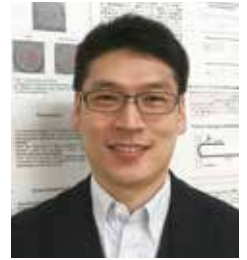
平成30年11月29、30日に山口で開催されました第77回日本めまい平衡医学会において優秀ポスター賞を受賞いたしました。内容はメニエール病の診断方法に関する研究成果です。MRIと簡単な問診で約9割の感度、特異度を得ることができました。研究遂行に際してご指導いただきました放射線科と臨床研究センターの先生方に深謝いたします。また本研究にご協力くださいました同門の先生方、医局の先生方に心より御礼申し上げます。



12.1 先進医薬研究振興財団・平成30年度 精神薬療分野研究助成(若手研究者助成) を受賞しました

未来基礎医学教室 特任講師 森 英一朗

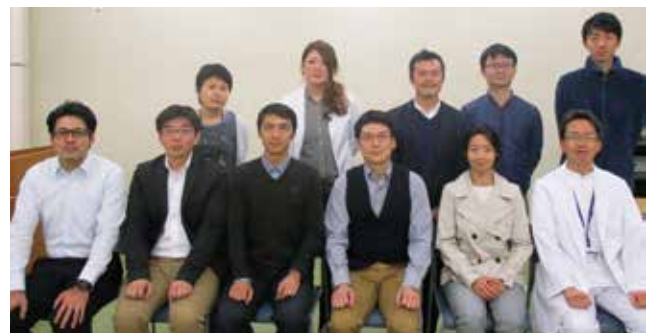
この度、「C9orf72遺伝子のリピート異常による前頭側頭型認知症の研究」を研究テーマとして、先進医薬研究振興財団・平成30年度精神薬療分野研究助成(若手研究者助成)(100万円)を受賞しました。本研究では、C9orf72遺伝子のリピート異常によって生じる前頭側頭型認知症の病態発症機序の解明を目指します。本受賞を励みに、今後益々、研究に精進したいと思います。



12.21 AMED 国際脳・採択課題のキックオフ ミーティングを開催しました

未来基礎医学教室 特任講師 森 英一朗

この度、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)戦略的国際脳科学研究推進プログラム(国際脳)の先進的個別研究開発課題(若手研究型)「精神・神経疾患に対応した研究」の公募で、「筋萎縮性側索硬化症の病態発症に関連した毒性ポリペプチドに関する研究開発(代表:森英一朗)」と題した課題が採択されました。研究体制は、奈良医大・Wiriyasermkul Pattama先生(プロテオミクス)、立命館大学・吉澤拓也先生(生物物理学的解析)、名古屋大学・愛場雄一郎先生(化学的・in-silico的解析)に分担者として参画頂きました。申請課題の採択を受けて、平成30年12月21日に、本学にて本研究課題のキックオフミーティングを開催し、特別講師として筑波大学・山城義人先生に「血管壁のメカノトランスダクション機構の解明」と題して御講演を頂きました。また、本課題に関連のある学内共同研究者の脳神経内科学講座教授・杉江和馬先生と生体分子不均衡制御学共同研究講座教授・永森收志先生、及び関係者の先生方に参加頂きました。本課題を通じて、筋萎縮性側索硬化症及び関連疾患の病態解明を行い、診断法や治療法の開発に資する成果を出せるよう努めて参ります。



Winner Report

12.15

第222回日本内科学会近畿地方会で 若手奨励賞(優秀演題賞)を受賞しました

脳神経内科学講座 後期研修医 西森 裕佳子

平成30年12月15日に大阪市で開催された第222回日本内科学会近畿地方会における若手奨励賞セッション(口演発表)で、本学脳神経内科学講座の西森裕佳子後期研修医が50題以上の中から選ばれ、優秀演題賞を受賞しました。演題「呼吸器を契機に入院し、免疫治療が奏効した抗中性糖脂質抗体陽性脳脊髄根末梢神経炎(EMRN)の1例」は、当科と藤田医科大学脳神経内科との共同研究による成果であり、中枢から末梢まで広範囲にわたる多彩な神経症状を呈し、新たな疾患概念であるEMRNの病態機序を考える上で貴重な症例検討でした。本学会の若手奨励賞は、審査委員20名による厳正な選考により授与されたものです。若手医師にとっては今後の内科学診療および研究の大きな励みとなり、今後さらに研究の発展に貢献してくれるものと考えます。



1.22

高度医療技術修得者養成について

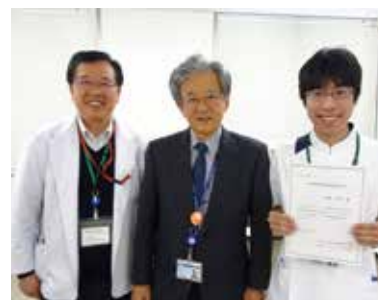
本院では、平成22年6月から医療技術の進歩による医療機器の多様化・高度化に対応できる、より専門性の高い臨床工学技士「高度医療技術修得者」を、全国に先駆けて当院独自で養成しています。「高度医療技術修得者」は周術期のチーム医療に麻酔アシスタントとしての配置を目的とし、日本麻酔科学会編「周術期チームテキスト」を基準とした「麻酔アシスタント業務に関する臨床工学技士の高度医療技術修得のための研修プログラム」により、500例以上の実習を中心とした研修を、麻酔科医の指導の下で1年間受講します。

今回、医療技術センターの臨床工学技師1名(尾崎啓太技師)が、この研修プログラムを修了し、高度医療技術修得者養成認定審査委員会の認定審査を経て、1月22日に古家病院長から認定証が交付されました。

これにより総勢9名の臨床工学技士が高度医療技術修得者として、麻酔科医と共に周術期領域で活躍しています。

【高度医療技術修得者】

平成23年度	杉本 浩士 川西 秀明
平成24年度	塩田 隆
平成25年度	藤田 剛史 山中 浩太郎
平成26年度	小野寺 広希
平成28年度	衣笠 佑基
平成29年度	曾碩 真弘
平成30年度	尾崎 啓太



2.2

日本医療マネジメント学会 第14回 奈良支部学術集会で優秀賞を受賞しました

平成31年2月2日に奈良県総合医療センターで開催された日本医療マネジメント学会第14回 奈良支部学術集会において、本学の職員、石川 貴雄さん、谷口 晃さん、森田公美子さんが成果発表を行い、優秀賞を受賞しました。

医療安全推進室 看護主任 森田 公美子
(一般演題 ポスターの部優秀賞)

『5段階評価を取り入れた院内安全ラウンドの試み』について発表をおこないました。

発表に際し、各病棟、リスクマネージャーのみなさんには多大なご協力をいただきました。

この場を借りて御礼申し上げます。



医療安全推進室 室長 谷口 晃
(優秀賞)

奈良県医療安全推進センターによる「患者誤認ゼロ」の実現に向けて、奈良県下の医療機関で一斉に提示することを目的としたポスター公募に室員一丸となり取り組みました。さらに院内より多数のご応募をいただき感謝いたします。これをきっかけに、患者誤認ゼロに向けて院内の医療安全文化が醸成することを期待しています。



施設管理室 職員 石川 貴雄
(優秀賞)

この度は表彰をさせていただき、誠にありがとうございます。私は本学の職員として働いており直接患者様と接する事はないですが、患者様が安全な治療を受けていただき、患者様と医療者自身が安心して治療できる環境となればと思いポスターをデザインさせていただきました。改めて、賞を受賞いただいたことを感謝お礼申し上げます。



2.8 Next Frontiers in Urology 2019 で 最優秀ポスター賞 を受賞しました

泌尿器科学 助教 三宅 牧人

このたび、ロサンゼルスで行われました Next Frontiers in Urology 2019 : 米国泌尿器科学会/日本泌尿器科学会合同シンポジウム において『最優秀ポスター賞』を受賞しました。受賞演題は「膀胱癌における膀胱全摘除術前の化学免疫療法の至適化：シンジェニック動物モデルの応用」です。手術時の不完全切除による術後再発を防ぐために、従来の術前抗癌剤へ免疫賦活剤を追加併用する新規治療の可能性を示したものです。本研究の遂行にあたってご支援を賜りました方々に、この場をお借りして御礼申し上げます。



3.2 第223回 日本内科学会近畿地方会 若手奨励賞を受賞しました

医学部医学科 6年 (循環器内科学講座) 高 里奈

2週ポリクリで担当させて頂いた患者さんについて症例報告を行いました。自分の中でも大変印象に残っていた患者さんでしたので、このような機会を頂いた事を大変嬉しく思います。

学会発表は初めてでしたが、先生に何度もスライドにご指摘を頂き、練習を重ね、完成させることができました。

斎藤教授、中川先生、金岡先生をはじめこの発表を支えてくださった全ての先生方に深く感謝いたします。



3.4 平成30年度FD活動表彰式を行いました

平成30年度は全8回のFDが開催されました。平成30年度FD活動の表彰については、医学教育フォーラム(テーマ：医学教育における評価について)において提出されたレポートにより、本学にとって有意義であり、非常に充実した意見を発表いただいた方を対象といたしました。結果、教養教育：松平崇助教(化学) 基礎医学：堀江恭二助教(第2生理学) 臨床医学：浅井英樹助教(救急医学)が表彰されました。



3.2 第33回日本助産学会学術集会学生ポスター発表で全国助産師教育協議会賞を受賞しました

助産学領域 修士課程2年・1年生

第33回日本助産学会学術集会(平成31年3月2～3日：博多)学生ポスター発表において、演題名「継続事例との関わりから見つけた助産師の強み」が「全国助産師教育協議会賞」を受賞しました。受賞理由は「実習からの学びとそこから導かれた今後の課題に焦点が絞られ、継続事例実習の意義が改めて確認された発表だったこと」で、修士課程2年生と1年生の共同制作が実を結びました。また、ポスター発表の際には、附属病院臨床指導助産師の方々も聴講していただき、あらためて感謝と御礼を申し上げます。



左から：岡本喜代子氏、南野千智恵子氏 中央左より：谷口初美氏、Ms. Frances Day-Stirk

3.4 平成30年度TBL Best Teacher 表彰式を行いました

基礎医学Ⅰ TBL Best Teacher 生化学 講師 廣中 安佐子
基礎医学Ⅱ TBL Best Teacher 免疫学 助教 王寺 典子
臨床医学 TBL Best Teacher 放射線医学 講師 伊藤 高広
循環器内科学 診療助教 中川 仁

本学では、双方向性授業の導入のための教育手法として以前よりTBL (Team Based Learning) を導入してきました。平成30年度に行われた基礎医学Ⅰ(医学科2年生)、基礎医学Ⅱ(医学科3年生)、臨床医学(医学科5年生)におけるTBLの学生アンケートにて「一番興味を持ったTBL」に選ばれた担当教員がBest Teacherとして表彰されました。

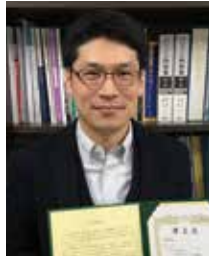


Winner Report

3.4 テルモ生命科学芸術財団・2018年度研究助成(再生医療研究)を受賞しました

未来基礎医学教室 准教授 森 英一朗

この度、「ミクログリアを持つヒト脳オルガノイドの構築」を研究テーマとして、テルモ生命科学芸術財団・2018年度研究助成(再生医療研究)(200万円)を受賞しました。本研究では、様々な脳神経疾患で重要な役割を果たしていることが知られているミクログリアを含有するヒト脳オルガノイドを作製し、ヒト脳疾患の病態解明を目指します。本受賞を励みに、今後益々、研究に精進したいと思います。



3.6 平成30年度医学教育等関係業務功労者賞を受賞しました

看護部 看護指導主査 須賀 喜文

この度は、平成30年度医学教育等関係業務功労者賞を受賞させていただきに誠にありがとうございます。このような栄誉を受賞させていただき大変光栄に思っております。今回の受賞は、数十年の看護師の活動の中において私一人ではなしえなかったことであり、周りの方々のご支援やご指導のおかげと感謝いたしております。

今後も、多くの人たちとの絆を大切に、看護を目指す若い世代の人たちの一助となるように引き続き看護の職に邁進していきたいと思っております。



3.19 内藤記念科学振興財団・2018年度奨励金・研究助成を受賞しました

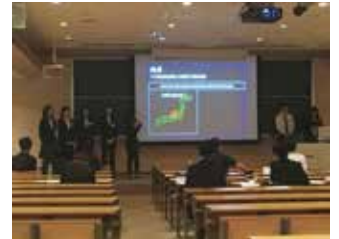
未来基礎医学教室 准教授 森 英一朗

この度、「中間径フィラメント形成異常によるDesminミオパチーの病態解明」を研究テーマとして、内藤記念科学振興財団・2018年度奨励金・研究助成(300万円)を受賞しました。本研究では、中間径フィラメントの形成異常によって生じる、Desminミオパチーの病態を明らかにすることで、治療法の開発に繋げる知見を得ることを目指します。本受賞を励みに、今後益々、研究に精進したいと思います。



奈良医大チームが3位入賞しました

昨年夏に行われた第48回西日本医科歯科薬科学学生ESS連盟夏季総合大会 Basic Medical Conference 部門にて、奈良医大チームが3位入賞を果たしました。この大会は毎年基礎医学について大学ごとのチームで研究について30分のプレゼンテーションと15分の質疑応答を英語で行うもので、本年度のテーマは神経学でした。奈良医大チームはAMPA receptor-mediated Treatments ~A Novel Therapeutic Approach for ALS~ と題して筋萎縮性側索硬化症(ALS)に対する新規治療法について発表を行いました。今年のテーマは腫瘍学であり、現在新たなメンバーとともに論文を探しております。発表準備にあたり実際に患者さんと接する機会をあたえていただき、発表の指導をいただきました。杉江教授をはじめ脳神経内科学教室の先生方、そして臨床英語教室の先生方に深く御礼申し上げます。



平成30年度 学位授与の状況

次の35名に博士(医学)の学位が授与されました。(甲は「主科目」を、乙は「所属」を表しています。)

本審査日 平成30年6月12日(火) 5名

(甲) 山田 孫平	生体高分子学	山下真理子	視覚統合医学
正島 良悟	遺伝情報病態学	大西 正展	運動器再建医学
(乙) 榊田 義英	整形外科学		

本審査日 平成30年9月11日(火) 4名

(甲) 吉峰 正	総合病態放射線腫瘍学	盛本 翼	精神医学行動神経科学
(乙) 中嶋 千恵	分子病理学	瓜園 泰之	総合医療学

本審査日 平成30年11月13日(火) 14名

(甲) 山藤 滋	運動器再建医学	中島 拓紀	糖尿病学
吉本 和樹	公衆衛生学	堀 俊太	泌尿器機能制御医学
新城 武明	分子機能形態学	森澤 洋介	泌尿器機能制御医学
寺田 雄紀	分子機能形態学	宮下 和也	皮膚病態医学
岸本 美和	公衆衛生学	小松 祐子	感染病態制御医学
今井 信也	公衆衛生学		
(乙) 上田昇太郎	精神医学	朴 紀央	皮膚科学
石田由佳子	整形外科学		

本審査日 平成31年3月5日(火) 12名

(甲) 中野 知哉	循環器病態制御医学	森本 安彦	運動器再建医学
喜馬 啓介	泌尿器機能制御医学	今井 裕子	法医学
北條 潤也	運動器再建医学		
芝本 陽子	放射線治療専門医養成コース		
今北菜津子	免疫学		
佐藤 慎哉	消化器病態・内分泌機能制御医学		
(乙) 中田 佳世	小児科学	菅原 裕	循環器内科学
南 博明	小児科学	中西 真理	法医学

リサーチ・クラークシップ体験談

リサーチ・クラークシップとは：医学科 2 年生の授業科目の一種で、本学の研究室または、国内外の研究施設に約 2 か月間在籍し、高度な実験科学の進め方を実際に体験します。この実習に伴う交通費や実習費は法人が負担し、宿泊費の一部は「未来への飛躍基金」から助成されています。

医学科 3 年 小林 かれん

派遣先：Augusta University, Medical College of Georgia, Vascular Biology Center

私は 2 か月間、アメリカ ジョージア州にあるオーガスタ大学 Vascular Biology Center で研修しました。取り組んだ研究内容は運動時の二型糖尿病マウス骨格筋における代謝と血管新生タンパクの発現についてです。最初は結果を出すことで精一杯でしたが、担当教員や教授と話し合いを重ね徐々にストーリーを作っていく、今回の研究を一つの形にすることができました。短くも長くもあった今回の派遣で、研究の世界に触れる事が出来たばかりでなく、海外で生活するという貴重な経験をさせて頂きました。このプログラムに携わって下さった全ての方、「未来への飛躍基金」に御協力頂いた方々に感謝を申し上げますと共にこれからもこの恩を忘れずに勉学に励んでいきたいです。(写真は毎年 2 月の第 1 金曜日に実施される女性の循環器疾患予防キャンペーンに参加した際の写真で、参加者は赤い服や赤い物を身につけて活動します。)



医学科 3 年 佐々木 里歌

派遣先：理化学研究所脳神経科学研究センター 精神生物学研究チーム (内匠透研究室)

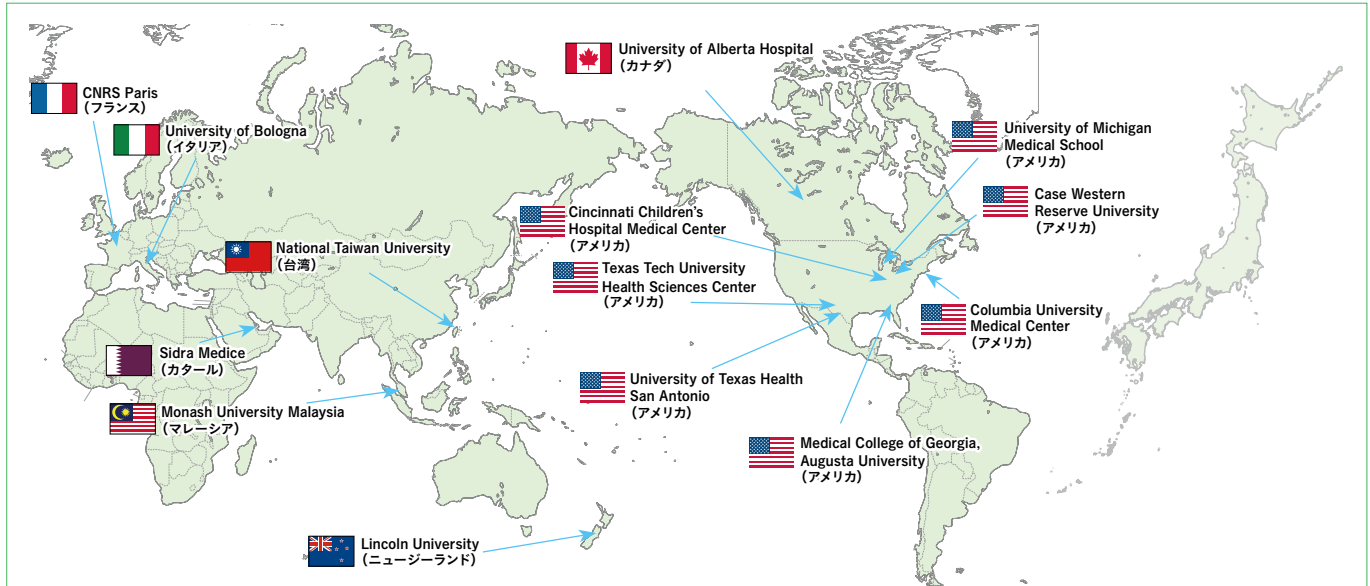
世界で 3 億人を上回る人が罹患するうつ病は、現代社会において深刻な疾患ですが、うつ病発症の明確な原因は解明されていません。そこで私は、うつ病発症のメカニズムを詳しく調べたいと考え、理化学研究所脳神経科学研究センターで研究実習を行いました。研究室では、うつ病耐性マウスの行動実験及び時計機構と気分障害をリンクする分子機構の解析を行いました。実験は、原理や操作過程の意味を理解したうえで、先生方の指導を受けながら取り組み、改善点についてはディスカッションを重ねました。慣れてきた頃には、主体的に実験計画を立てることができました。今回の実習は、研究者への第一歩を踏み出すことができた貴重な経験でした。援助していただいた大学及び「未来への飛躍基金」を助成していただいた方々に、心からお礼申し上げます。



医学科 3 年 西井 貴恒

実習先：本学 第二解剖学講座

1 年で最も寒い時期ではありましたが、お世話になった第二解剖の各教室にはストーブがあり寒さを苦にせず研究に没頭できました。脳の立体的な構造を学ぶことと顕微鏡で細胞を観察することを楽しみにしていたところ、実際に目にした脳全体や各種細胞の形態は想像以上に複雑で好奇心をかき立てられました。開始当初は、手技などの拙劣さから空回りを重ねるのではないかと内心恐れていましたが、先生方の丁寧な指導と手厚い補助をいただいたお陰で 2 か月という期間に比して十分な成果を得られ、更なる展望に繋がる発見もできました。今後も第二解剖に通うつもりですが、これからどんな実験結果に出会うこととなるか楽しみです。よい機会をいただいたことに、この場で感謝の辞を述べさせていただきます。



- 海外** 海外 16 名の 2 年次学生派遣 (2018 年度実績)
- アメリカ [Michigan] University of Michigan Medical School
 - マレーシア [Monash] Monash University Malaysia
 - カナダ [Alberta] University of Alberta Hospital
 - 台湾 [Taiwan] National Taiwan University
 - アメリカ [New York] Columbia University Medical Center
 - アメリカ [Texas] Texas Tech University Health Sciences Center
 - フランス [Gif-sur-Yvette] CNRS Paris
 - カタール [Doha] Sidra Medicine
 - アメリカ [Augusta] Medical College of Georgia, Augusta University
 - ニュージーランド [Canterbury] Lincoln University
 - アメリカ [Cincinnati] Cincinnati Children's Hospital Medical Center
 - アメリカ [Texas] University of Texas Health San Antonio
 - イタリア [Bologna] University of Bologna
 - アメリカ [Cleveland] Case Western Reserve University

- 国内** 23 名の 2 年次学生派遣 (2018 年度実績)
- 岩手医科大学 薬学部
 - 理化学研究所 脳神経科学研究センター
 - 国際医療福祉大学 医学部
 - 早稲田大学 先進理工学部
 - 慶應義塾大学 医学部
 - NTTコミュニケーション科学基礎研究所
 - 金沢大学 医薬保健学総合研究科
 - 同志社女子大学 薬学部
 - 京都大学大学院医学研究科・医学部
 - 足立病院 生殖内分泌医療センター
 - 国立循環器病研究センター 人工臓器部、分子生理部
 - 川崎医科大学 医学部
 - 東京医科歯科大学 医学部
 - 自治医科大学附属さいたま医療センター

未来への飛躍基金だより

2018年度寄附実績のご報告

「未来への飛躍基金」は、創設以来4年間、皆様からの温かいご支援により申込金額約6.5億円に達しました。日頃より基金へのご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

いただきましたご厚志は、主に学生の海外・国内での研修への支援、国家試験対策への支援及び臨床研究中核病院の承認への支援等幅広く活用させていただいております。

昨年度は、34名の学生が本基金の支援により、海外で貴重な体験をしており、年々、海外実習を希望する学生が増加しております。

今後さらに、本学が全国的に存在感のある大学として、何十年も存続していくためには皆様からの継続的なご協力・ご支援が不可欠です。

今年度も引き続き、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

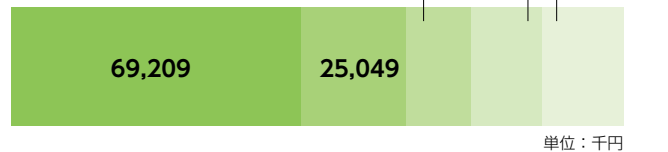
2018年度の詳しい収支報告については、秋頃発行予定の活動報告書に掲載させていただきます。

● 2018年度寄附申込実績

申込件数 623件



申込金額 146,021千円



■ 卒業生 (役員・教職員を除く) ■ 役員・教職員
■ 在学生の保護者 ■ その他 ■ 法人・企業

奈良県立医科大学総務課基金推進係 TEL：0744-23-9973 (直通) E-mail：hiyakukikin@naramed-u.ac.jp

The donation person name

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました

基金創設以来、平成31年3月までに累計2,425件のご寄附をいただいております。

なお、今号では、平成31年1月～3月にお申し込みいただいた方のご芳名を掲載させていただきます。

【個人】

◆100万円以上

國分 清和 様 宮坂 典央 様

◆30万円以上100万円未満

北尻 耕一 様 紀本 創兵 様 水島 正樹 様
八木 正躬 様 芳野 浩樹 様

◆10万円以上30万円未満

澤田 秀智 様 鈴木 博 様 田中 末子 様
錦織ルミ子 様

◆10万円未満

田中美千子 様

掲載を希望されないご寄附者様 3名

【法人・企業】

◆100万円以上1,000万円未満

医療法人 優心会 吉江医院 様

◆10万円以上50万円未満

社会福祉法人 大阪暁明館 様

(五十音順)

平成30年12月以前にご寄附いただいた方のご芳名については、本学「未来への飛躍基金」HP (<http://www.naramed-u.ac.jp/~hiyakukikin/>) に掲載しております。

公開講座情報

第20回「呼吸の日」記念市民公開講座

開催日：令和元年5月12日(日) 13:30～16:00
場所：奈良県文化会館 小ホール
概要：タバコと肺の病気ーそれでもタバコを吸いますか？
講演者：世話人・座長 栄養管理部 吉川雅則 病院教授
 講演 呼吸器内科学 室繁郎 教授 他
対象：県民
備考：事前申込不要 参加無料
問合せ先：日本呼吸器学会近畿支部
 TEL 06-6252-5044 FAX 06-7657-8412

第2回わい和いNARA 在宅サポート研究会研究発表会

開催日：令和元年6月1日(土) 10:00～15:30
場所：奈良県看護協会
 ホームナーシングセンター 2階研修室
概要：災害時のケアを考えよう
 ～医療と介護と奈良でできること～
対象：県民
備考：事前申込必要(当日参加可) 参加無料
問合せ先：在宅看護学 TEL 0744-22-3051(内線2776)
 E-mail:yনারাক@naramed-u.ac.jp

第10回リウマチ市民公開講座 10年の歩みと未来

開催日：令和元年6月2日(日) 13:00～15:40
場所：奈良県社会福祉総合センター
概要：医療講演、患者参加型パネルディスカッション、健康相談会 等
講演者：整形外科 田中康仁 教授(開会挨拶) 他
対象：県民
備考：事前申込不要 参加無料
問合せ先：奈良新聞社企画部 TEL 0742-32-2112

肝臓撲滅市民公開講座

開催日：令和元年6月15日(土) 15:00～17:00
場所：奈良県橿原文化会館小ホール
概要：肝臓についてスペシャリストによる最新情報など
対象：県民
備考：事前申込不要 参加無料
問合せ先：内科学第三講座
 TEL 0744-22-3051(内線3415)
 E-mail:3naika@naramed-u.ac.jp

平成31年度入試結果

		募集人員	志願者数 (A)	受験者数	合格者数 (B)	追加合格者数 (Bの内数)	入学者数	志願倍率 (A/B)	前年度倍率
医学科	推薦(緊急医師確保)	13	126	117	13	0	13	9.7	8.5
	推薦(地域枠)	25	169	168	25	0	25	6.8	7.1
	前期	22	205	178	22	0	22	9.3	9.1
	後期	53	797	358	64	11	53	12.5	15.7
	編入学(研究医枠)	2	5	5	0	0	0	0	4.0
	編入学	1	11	10	0	0	0	0.0	13.0
	小計	116	1,312	835	125	11	114	10.5	11.9
看護学科	推薦(地域枠)	35	67	65	35	0	35	1.9	2.2
	社会人	5	6	6	2	0	2	3.0	2.0
	前期(一般枠)	35	113	111	37	2	35	3.1	3.0
	前期(地域枠)	10	44	43	13	0	13	3.4	2.5
	小計	85	230	225	87	2	85	2.6	2.6
医学部	合計	201	1,542	1,060	210	13	199	7.3	8.0

Media Listing Information

メディア掲載情報をお寄せください～学報紙面で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生をこの「学報」紙面で紹介します。

日付	媒体	対象者	掲載概要
2018年	12月20日 奈良新聞	MBT研究所 講師 遊佐 敏彦	高取町内で医学的効果を測定、大和トウキで癒やし
	1月11日 日本経済新聞 (WEB)	MBT研究所 研究教授 梅田 智広	年内に職場や家庭での健康管理を支援するサービスの提供に
	1月25日 日本テレビ 「超問クイズ!真実か?ウソか?」	名誉教授 大崎 茂芳	元フィギアスケート選手の村上佳菜子氏が大崎名誉教授のクモの糸の研究について取材
	1月27日 読売新聞	内科学第三 教授 吉治 仁志	病院の実力コーナーにて肝臓がんについてコメント
	2月5日 日本経済新聞 読売新聞	MBT研究所 研究教授 梅田 智広	近鉄グループと組み、沿線住民の健康管理サービスの実証実験を開始する
	2月13日 産経新聞 奈良新聞		産学官連携でまちづくりへ
	2月13日 日経デジタルヘルス	MBT研究所 研究教授 梅田 智広	MBTリンクが近鉄グループのヘルスケアサービスの実証実験に協力すると発表
2019年	2月17日 朝日新聞		奈良県立医科大学公開講座「くらしと医学」の講演模様が掲載
	2月22日 奈良新聞	内科学第三 教授 吉治 仁志	奈良マラソン会場で「なるほど肝炎!@奈良マラソンPART II」と題してお笑い芸人間寛平氏とのスペシャルトークが掲載
	2月26日 読売新聞		MBT コンソーシアム会議にて学生3人がMBTの今後の取り組み等は英語で提案
	2月27日 奈良新聞	MBT研究所	ウェアラブル端末による生体情報収集について
	2月28日 朝日新聞	脳神経外科学 病院教授 朴 永銖	SBSに関するシンポジウムでのコメントが掲載
	2月28日 フジテレビ「直撃!シンソウ坂上」	整形外科 教授 田中 康仁	リスフラン関節症と外反母趾について解説
	3月4日 NHK 総合「ならナビ」	産婦人科 教授 小林 浩	妊婦見守り実証実験「妊娠期・子育て支援サービス」についての特集
	3月20日 NHK 総合「ニュースチェック11」		

編集後記

皆様からのご協力をいただき第68号学報を発行することができました。ご協力・ご支援いただいたみなさまに深く感謝申し上げます。

新年度に入り、皆さまいかがお過ごしでしょうか。新人の方、異動された方も、新しい職場にだいぶ慣れたころでしょうか。季節の移り変わりの時期は体調を崩しやすいので、皆さま体調管理には十分にお気をつけください。

